

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成27年8月13日(2015.8.13)

【公表番号】特表2014-527114(P2014-527114A)

【公表日】平成26年10月9日(2014.10.9)

【年通号数】公開・登録公報2014-056

【出願番号】特願2014-528389(P2014-528389)

【国際特許分類】

C 08 L 27/12 (2006.01)

C 08 K 3/04 (2006.01)

C 08 K 5/14 (2006.01)

C 08 K 5/103 (2006.01)

【F I】

C 08 L 27/12

C 08 K 3/04

C 08 K 5/14

C 08 K 5/103

【手続補正書】

【提出日】平成27年6月23日(2015.6.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

A)過酸化物硬化性フルオロエラストマーと、

B)25~130m<sup>2</sup>/gの窒素吸着比表面積および50~140ml/100gのフタル酸ジブチル吸収量を有する、フルオロエラストマー100重量部当たり8~25重量部のカーボンブラックと、

C)少なくとも1つの炭素-炭素二重結合および少なくとも1個のエステル基を有する、フルオロエラストマー100重量部当たり0.1~8重量部の可塑剤と、

D)フルオロエラストマー100重量部当たり0.25~2重量部の有機過酸化物と、

E)フルオロエラストマー100重量部当たり0.3~1.3重量部の多官能性助剤と、を含む硬化性フルオロエラストマー組成物。

【請求項2】

請求項1に記載の組成物から製造された硬化高温エアホース。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

上記のフルオロエラストマー化合物は、高温で動的耐疲労性を必要とする他の用途、例えば、ダイヤフラムにおいても有用である。

以下に、本発明の好ましい態様を示す。

[1] A)過酸化物硬化性フルオロエラストマーと、

B)25~130m<sup>2</sup>/gの窒素吸着比表面積および50~140ml/100gのフ

タル酸ジブチル吸収量を有する、フルオロエラストマー 100 重量部当たり 8 ~ 25 重量部のカーボンブラックと、

C) 少なくとも 1 つの炭素 - 炭素二重結合および少なくとも 1 個のエステル基を有する、フルオロエラストマー 100 重量部当たり 0.1 ~ 8 重量部の可塑剤と、

D) フルオロエラストマー 100 重量部当たり 0.25 ~ 2 重量部の有機過酸化物と、

E) フルオロエラストマー 100 重量部当たり 0.3 ~ 1.3 重量部の多官能性助剤と、を含む硬化性フルオロエラストマー組成物。

[2] 前記可塑剤が、アクリレート、メタクリレートおよびエタクリレートからなる群から選択される少なくとも 1 種のアクリレートを含む、[1] に記載の硬化性組成物。

[3] 前記可塑剤が、トリメチロールプロパントリメタクリレート、多価アルコールエタクリレート、多価アルコールメタクリレートおよび多価アルコールアクリレートからなる群から選択される、[2] に記載の硬化性組成物。

[4] 前記カーボンブラックが、HAF、ISAF-SAF、SRF-HS-HM および FEF からなる群から選択される、[1] に記載の硬化性組成物。

[5] JIS K 6300 に準拠し、ML(1+4)、100 で測定された、最大で 80 までのムーニー粘度を有する、[1] に記載の硬化性組成物。

[6] [1] に記載の組成物から製造された硬化高温エアホース。

[7] JIS K 6251 に準拠して、230 で少なくとも 120 % の破断点伸びを有する、[6] に記載の高温エアホース。

[8] JIS K 6253 に準拠して、23 で 73 ~ 85 ポイントのデュロ A 硬度を有する、[6] に記載の高温エアホース。

[9] JIS K 6257 に準拠して測定された、230 で 168 時間オープン加熱老化後に 8 ポイント以下の硬度の変化を有する、[6] に記載の高温エアホース。

[10] 230 で 70 時間にわたる 25 % 圧縮後に（大形試験片、JIS K 6262 に従って測定された）、70 % 以下の圧縮永久ひずみを有する、[6] に記載の高温エアホース。